

## 以下に、クラブとしての新型コロナウイルスへの考え方を示します。

WHO の会見では、日本のインフルエンザ等、既存の疾患発見の仕組みが機能しているとの見方を示しました。しかしながら、“検査数（発症数）に表れない対策”もあるとの認識も出されています。

日本の新型コロナウイルスの感染者数が、統計上は先進国中において圧倒的に少ない状況を巡り、感染者が急増中の欧米諸国メディアから日本における PCR 検査不足を指摘、実態が反映されていないのか、または感染抑止で健闘しているのか注視され始めています。WHO は検査徹底が最重要としながらも、検査数での是非を判定することに慎重な姿勢を示しています。

また3月23日の WHO 幹部による記者会見によれば、日本の検査数の少なさについて問われた際、「インフルエンザ等の既存の疾患発見の仕組み」が機能しており、検査前に別の疾患が判明する場合もあると回答。検査が重要であるとする一方、『検査数に現れない対策』もあるとの認識を示しました。

この『検査数に表れない対策』こそ、私達自身が実践できる自己防衛と考えます。

クラブとしては可能な限り世界のデータを踏まえながら、油断せず、常に意識を高め、また引き締め、活動に支障とならないためにも皆で団結してウィルスと戦いたいと考えます。

これまで以上に、手洗いなどの基本的事項を徹底し、厳しい環境の中でもうまくサッカーに向き合いたいと思います。

### 今後のクラブとしての対応

1. 通常通りのスクール・トレーニングの開始は、時期と状況を見ながら判断します。  
スクール・トレーニングの開始は状況を見ながら判断し、慌てずに、しかし時期を逃す事のないよう細心の注意を払います。
2. 子供たちの身体を動かす環境提供を行政との連携を図り、できるだけ行うようにします。  
困難な時期にあっても、常に行政との連携を図りながら、子供達の身体を動かす環境が提供できるよう最善を尽くします。但し、決して無理は致しません。
3. 対外試合など、他クラブと接する機会がある場合は、できるだけ選手間の接触場を遠ざけます。また交流先のクラブにも同様の対ウィルスへの考え方や実践を共有できるよう事前に働き掛けます。
4. クラブの活動時、密室での対応がやむを得ない場合は、できるだけ時間を短く、接触機会を避けま  
す。但し、ウィルスの状況によっては風通しの良い屋外での対応を優先します。
5. その他、考えられる拡大防止策・自己防衛策を講じます。またクラブからの一方通行ではなく、会員保護者からの情報やご意見等を [info@ccsc-jp.org](mailto:info@ccsc-jp.org) で随時受け付けます。いただいた内容はクラブの判断のもと、ホームページや SNS に反映していきます。

以上の内容で対応します。

**皆さまにおかれましても、下記内容をお願いする次第です。**

1. 虚偽申告や無理強いは大変危険です。体調がすぐれない・咳が出るなど、少しでも体調に異変があれば、スクールやトレーニングマッチなどへの参加を控えてください。そのうえで、自宅に待機し、速やかに所定の行政や保健所に連絡し、指示を仰いで下さい。
2. 各活動の参加前に家庭で検温をお願いします。体温が 37.5℃以上ある場合は参加不可とします。また参加の有無にかかわらず、最低朝晩の検温実施を推奨します。
3. 会場入口にアルコール消毒を設置しております。グラウンドの入退時にご使用ください。
4. グラウンドに石鹼を用意しています。積極的に手洗い・うがいをしましょう。正しい手洗い方法が不明な方は、スタッフに声を掛けていただき指導を受けてください。
5. スタッフ・選手同士の握手は行いません。
6. ビブスの交換使用は禁止します。

少しでも子供たちのストレス・心理的なケアに繋がればと願っております。

自主練習のメニューなどスタッフにどんどん質問してみてください！

この時期だからこそやれる事を精一杯やっていきましょう！

またみんなと笑顔でサッカー出来る事を楽しみに、少しでも早く感染拡大が収まり、これまでの生活に戻って来ることをスタッフ一同願っております。